

願成寺報

令和五年三月十二日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎〇五三二・五二・九六〇一

■ 春季彼岸・永代経のご案内

- コロナ禍の感染対策を少し緩和して勤めます
- 出入口と窓を開けて換気します
- 堂内お参りの際はマスクの着用を願います
- 事前にご連絡下されば席を用意します
- ・お斎（昼食）は残念ですが中止します
- 午前・午後共のお参りで
- 昼食にお困りの方はご相談下さい

孤独な心が地獄を創ります
苦しい時こそ仏様と話しましょう 道が拓けます



「目覚め」が願われている

親鸞は父母の孝養のためとて、一辺にても念仏もうしたること、
いまだそうらわず。そのゆえは、一切の有情は、みなもって世々々々
の父母兄弟なり。いずれもいづれも、この順次に仏になりて、たす
けそうらうべきなり。

わがちからにてはげむ善にてもそうらわばこそ、念仏を回向して、
父母をもたすけそうらわめ。ただ自力をすてて、いそぎ浄土のさと
りをひらきなば、六道四生のあいだ、いずれの業苦しめりとも、
神通方便をもつて、まず有縁を度すべきなりと云々

〈歎異抄・第五条〉

親鸞は誰かを救う為に念仏したことは一度もない。その故は、全てのいの
ちは、如来の功德の中で、必ず仏へと救われていく存在なのだから。そして、
そのいのちが、私に「目覚めよ」と促すように輝いている。

念仏は、自分の力で救いを成す為の道具ではない。念仏は、救いに暗い私
を、いのちが輝き合う世界に目覚めしめるはたらきなのだ。まず自らが救
われるべきである。目覚めた姿は輝いて、誰かを救う縁となるだろう。

〈住職の意識〉

突然の災害で友を亡くした時、納得できる理由を探しても見つからない。
この世界の出来事は、私の納得できる範囲に納まりきらない。

亡き人を想って「良い人生だったか」と、評価のモノサシを当てることがある。
けれど、それは私の我儘なモノサシであり、その人や仏の評価ではあり得ない。
亡き人を思って「可哀想」は、なんだか傲慢な感じた。

自分の寂しさを「可哀想」とすり替えて、その人に投影しているだけではないか。
雑念を除いて悲しむ中で、亡き人に目覚め直せば、生き方が定まってくる。

主 冊 十七日（水） 午後十時 餅つき・車取り会

三月 二十 日（月） 午後一時半 法要のみ

二十一日（祝） 午前十時 法要・落語、法話

成田屋紫蝶 師、住職

正 午 お斎（昼食）

午後一時 法要・落語、法話

成田屋紫蝶 師、住職

● 阿弥陀経ノート⑧・正宗分・勸念仏・自証知見

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

舍利弗、若し善男子・善女人ありて、阿弥陀仏を説くを聞きて、名号を執持すること、若しは一日・若しは二日・若しは三日・若しは四日・若しは五日・若しは六日・若しは七日、一心不乱ならん。

その人、命終る時に臨みて、阿弥陀仏、諸の聖衆と与に、その前に現在したまう。この人終る時、心顛倒せず、即ち阿弥陀仏の極楽国土に往生することを得。

舍利弗、我この利を見るが故にこの言を説く。若し衆生ありてこの説を聞かん者は、应当に発願して彼の国土に生るべし。

〈仏説阿弥陀経・書き下し〉

・善男善女 大乘菩薩道を歩もうと志す者

・聞説弥陀仏 この経典が示す大乘菩薩道の意義と有様を聞き取ることに

經典の内容を疑いなく聞き 真実だと領くこと

・執持名号 「南無阿弥陀仏」の名号に救いを求めて称えること

・若一〜七日 七から一まで減数表記の場合の極限は一瞬となるが

一から七まで増数表記なので極限は無量無数となる

時処や長さ/回数に制限のないことを示す… か

・一心不乱 「私」は煩惱に乱れて雑行の主でしかない」と目覚めること

「仏に在らず」と一点に収まった心

・臨命終時 「臨終の時まで」聖人は平生から継続する期間とされた

「回数の制限がない」を承認すれば「再誕(生き直し)の時」と読むこともできる… か

・往生極楽 「臨終往生」ならば 最終的に涅槃寂靜の徳を得ること

「平生往生」ならば 諸仏の励ましを得て再誕すること

諸仏の護念を感じて慶び 苦とその意義を背負い直すこと

・人生の実相

かろうじて意義を見出したとしても、依然として生きていくことは厳しく辛い。例えば馬拉ソンを走る場合のように、ゴールのイメージが重要である。そして、そのイメージを支える治道の応援や伴走者があれば幸せだと思ふ。その幸せを慶ぶことが出来れば、苦の中で立ち停まったとしても、再びゴールを目指して走り始めることが出来るであろう。

人生の馬拉ソンは到達距離や所要時間を競うものではない。ノロノロとした歩みでも成果に囚われず、何かに励まされて、前に進もうとする姿で他を励ましていくドラマなのだ。物語は阿弥陀仏の功德の中で紡がれている。

・「迷い」は励ましを見失うこと

ドラマは困りごとを得て展開を始める。困りごとがない時に、励ましの声は聞こえない。けれど困った時に、必ずその声が聞こえるとも限らない。声がないのではなく、自尊心や自己防衛の心に囚われて、自ら耳を塞いでしまったのかも知れない。そんな孤独な心の状態を「迷い」と呼ぶのだと思う。そのままでは、感動の中で成長していく励まし合いのドラマは展開しない。

・念仏はその時の「私」を手放すこと

どうにもならない局面で、それを逃れようとジタバタしても「苦」や「迷い」は大きくなるばかりである。その局面を打開するには「私の理想」や「私の願い」を手放すより他にない。手放したその時、仏に祝福されて「新しい私」が誕生する。成長のドラマはそんな風に展開するのだと思う。

「新しい私」は、仏の願いに促されて、そのハンデを生きる意味に置き換えている。念仏者は失敗やハンデを課題として独創的に道を拓いていく。

・本願に目覚める

母親に抱かれた赤ちゃんは、泣き叫ぼうとも幸せである。子を泣かせる障害は成長の材料であり、慈母を感じる縁である。同様に、如来の功德は私の在り方を問わず私を包んでいる。そんな世界への目覚めが願われている。

創作・アングリマラーの再誕

彼は今日も托鉢に出かけた。罵声を浴び、唾を吐きかけられ、石を投げられて棒で打たれる。きつと傷だらけで帰って来るだろう。それは仏弟子と生まれ直した彼にとつて、成すべきことであり、成されねばならないことだった。仲間ももう彼を留めることをあきらめた。彼を心配し、治療薬を準備して帰りを待つこと、それが精舎の日常となっていた。

彼はバラモンの中でも特別な家の子息として生まれた。両親に愛され、容姿端麗、身体剛健、理知聡明にして、すくすく育った。やがて高名なバラモンの特別な弟子となった。全てが特別であった彼には、特別な志があった。だから女性達の秋波になびかず、弟子仲間の嫉妬も気にならなかった。そればかりか孤高の彼は、誘惑と悪意に満ちたこの世界を救いたいと願っていた。いつしか彼は、神へと続く、深淵な道を求めていたのかも知れない。

高名なバラモンは邪心から、この特別な弟子に偽りの奥義と鋭い剣を授けた。「我欲の塊である人間は必ず悪に染まる。百人を斬って指を集め、首飾りを作つて神に供えよ。そして、その徳を力として新しい世界を拓くのだ」

聡明なるが故に理知に迷つた彼の眼では、その邪心が見抜けなかった。

剣を一振りすることに孤高の心は、孤独へと傷んでいった。切り落とす指は温かく柔らかで、それを行う我が手は冷たく震えていた。それが狂気だどこかで判っていたが、止めることは出来なかった。九十九指を集めた時には、もう辺りに人影はなく、重い剣を引きずつて生贄を探し回る気力も尽きていた。

自分の指を最後の一本にしようとして剣をかざした時、その指を誰かの掌が包んだ。その感触は懐かしい母のようで涙が溢れたが、釈尊だった。

「其方にはまだ成すべきことがある」

たとえ償いきれない罪を犯したとしても、帰るべき家があり仲間が待っている。その支えを慶びつつ歩む姿で、弱く不安定な、苦悩するいのちの灯となれ。

〈Wikipedia等を参考にしたフィクション〉

少欲知足 もったいない



昨年もこのコーナーは、同じ老木の写真でした。一昨年より去年、昨年より今年。素晴らしく花をつけています。老いたればこそ、逆に環境適応力は高いのだ。そんな道理を教えられて、励まされます。

和顔愛語 ようこそ ようこそ



今年の年賀状は少し分かり難かったかも。後悔や悲しみで凍つた心で世界を見ると、色がなかったり、褪せてしまっていたり、「念仏」を窓として見つめ直せば、天然色で輝いていた！と、失敗かなあ…

恭敬三宝 おかげさま



高田本山・大法会

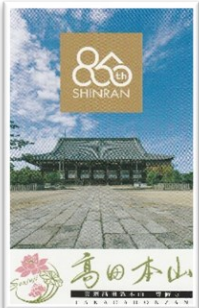
- 令和五年 五月二十一日～二十八日
- ・開山親鸞聖人御誕生850年
 - ・立教開宗800年
 - ・中興真慧上人500年忌
 - ・聖徳太子1400年忌



特別法要最新情報
www.senjuji.or.jp/

弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう
ご懇志御礼

日頃より寺院護持の為にご懇志をお届け頂き、篤く御礼申し上げます。今般、その中から二百万円を大法会志として、本山に送金しました。立教開宗八百年の大切な法灯を絶やさぬように、これからも、本山と共に精進して参ります。



行事予定 令和五年春以降

五月の月例会の開催日を変更しました、ご注意ください。

五月二十四日(水) 本山大法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します
午前六時半ごろ集合
詳細下記

八月十五日(火) お盆・歓喜会(住職)

法要・法話で亡き人を偲びます
軽食・花火あり
午後六時

九月二十四日(日) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時(昼食)あり
午前十時～午後一時

十一月三日(金祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します
午前六時半ごろ集合

十二月九日(土) 報恩講(戸田栄信・西川舜優師)

御開山聖人御恩に報いる法会です
お非時(昼食)あり
五日 午後一時半
六日 午前十時～午後一時半

四～十二月 月例会

午後二時～日時変更の場合があります、

五月は二日に
変更します

寺までき確認下さい



花まつり・豊橋仏教会 豊橋別院

四月十日(月) 午後、

四月十一日(火) 午前午後



本山大法会(特別法要)・参拝団募集 豊橋参拝団

近隣のご寺院様と共に、バス一台にて団体参拝致します。

高田本山では五十年毎に勤まる勝縁です。

ご一緒にお参りしませんか。

一. 期日 令和五年五月二十四日(水曜日)

二. 行程 六時三十分頃 市内各地集合 SA立寄り
十時三十分 高田本山到着

十一時〇〇分 奉賛法会・お説教
十二時三十分 昼食

自由散策

十五時〇〇分 高田本出発

十五時十五分 三重県立博物館 企画展「親鸞と高田本山」

十六時十五分 博物館出発 夕食弁当・SA立寄り

十九時〇〇分頃 市内各地解散

三. 会費 一万円

四. 募集人数 四十五名 最少催行人数 三十五名

五. 申込期日 令和五年三月末 募集人数に達し次第×切ります

六. 申込先 願成寺まで 申込後、詳細等ご連絡致します

七. イベント 新宝物館 新しい映像技術によるVR体験

□ 団体納骨 別途納骨冥加金が必要(納骨申込書参照)

□ 特別読経 別途読経志が必要(特別読経申込書参照)

□ 会館ホール 近郊物産展

□ 対面所 交流茶会(裏千家)

□ ガイドツアー 山内案内のツアーを企画中

□ 庭園・茶室 映画「レジェンド&バターフライ」のロケ地

津市の本山は真慧上人(第十世)の時代より五百年超の歴史を誇ります。

様々な出来事があった中、常に人々の思いを受け止めてきました。

お念仏を軸とした悠久の歴史の「コマ」に、貴方も身を置いてみませんか。

大募集!

